

講義ユニット名	免疫・アレルギー		所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	すぎやま えいじ 杉山 英二	所属	リウマチ・膠原病科 (内線 5539)	
		メール	esugiyam@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネー ター	ひらた しんたろう 平田 信太郎	所属	リウマチ・膠原病科 (内線 5539)	
		メール	shirata@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<p>関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、多発性筋炎、皮膚筋炎、混合性結合組織病、血管炎など膠原病の代表的疾患を主体に、また臨床的に重要な膠原病関連疾患についても概説します。膠原病は多臓器障害をきたす疾患であり、実際の診療においては常に全体像を把握しながら診療することが重要です。発熱、関節痛や皮疹など日常診療でよく遭遇する症状が膠原病を診断するきっかけとなることも多く、また、炎症病態を診る臨床はその応用が広いことを学んでください。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>自己抗体の種類と臨床的意義を説明できる。 膠原病と自己免疫疾患を概説し、その種類を列挙できる。 関節炎をきたす疾患を列挙できる。 Raynaud (レイノー) 症状を説明し、原因疾患を列挙できる。 全身性エリテマトーデス<SLE>の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。 全身性エリテマトーデス<SLE>の合併症 (中枢神経ループス、ループス腎炎) を説明できる。 抗リン脂質抗体症候群の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。 全身性硬化症<強皮症>の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。 全身性硬化症<強皮症>の臓器病変 (特に肺・腎) を説明できる。 皮膚筋炎・多発 (性) 筋炎の症候、診断と治療を説明できる。 関節リウマチの病態生理、症候、診断、治療とリハビリテーションを説明できる。 関節リウマチの関節外症状を説明できる。 悪性関節リウマチの症候、診断と治療を説明できる。 若年性関節リウマチの特徴を説明できる。 成人Still (スチル) 病を概説できる。 混合性結合組織病<MCTD>の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。 血管炎症候群を列挙し、その病態生理、症候、診断と治療を説明できる。 Sjögren (シェーグレン) 症候群を概説できる。 Behçet (ベーチェット) 病を概説できる。</p>			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。 3分の2以上の出席がない場合は試験 (本試験、追試験とも) の受験資格を与えない。			
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)			
評価法	MCQ形式で試験を行う。本試験における合格基準は60点とする。			
推奨参考書	学習に有用な参考書等 膠原病学 (塩沢俊一著)			